

中期経営計画説明会

＜2018年6月5日 訂正版＞

2018年5月29日
日本ライフライン株式会社

中期経営計画

'19/3期～'23/3期

代表取締役社長

鈴木 啓介

中期経営計画 目次

1. 当社の成長基盤
2. 基本方針
3. 前提条件
4. 業績目標
5. 事業分野別 中期見通し・課題
6. 営業利益推移
7. 開發生産体制
8. 設備投資、減価償却費、研究開発費



当社の成長基盤

メーカー機能

医療現場のニーズを反映した
自社製品の開発

商社機能

海外の最先端の
医療機器の探索・商権獲得

医療機器の早期導入を支える薬事戦略

全国を網羅する営業ネットワーク

規模拡大と収益性確保を両立

高水準での成長を目指す

基本方針

- ① 自社製品のさらなる拡充
- ② 仕入商品のパイプライン確保
- ③ 研究開発・生産体制の強化
- ④ 循環器以外の新領域の開拓
- ⑤ 海外展開

前提条件

当社中計は毎年ローリングし更新

- ・計画値には上市時期が特定されていない商品/製品は含まない
- ・販売契約、開発、治験等の最新の状況を踏まえ更新
- ・保険償還価格の想定

2020年、2021年*、2022年の4月に改定を見込む

(*2021年からの毎年改定を予想)

事業環境の変化へ迅速に対応

中期経営計画 業績目標

<昨年計画>

2017/5/31公表

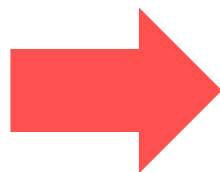
2022年3月期

連結売上高

662億円

営業利益率

25%



<本年計画>

2018/5/29公表

2023年3月期

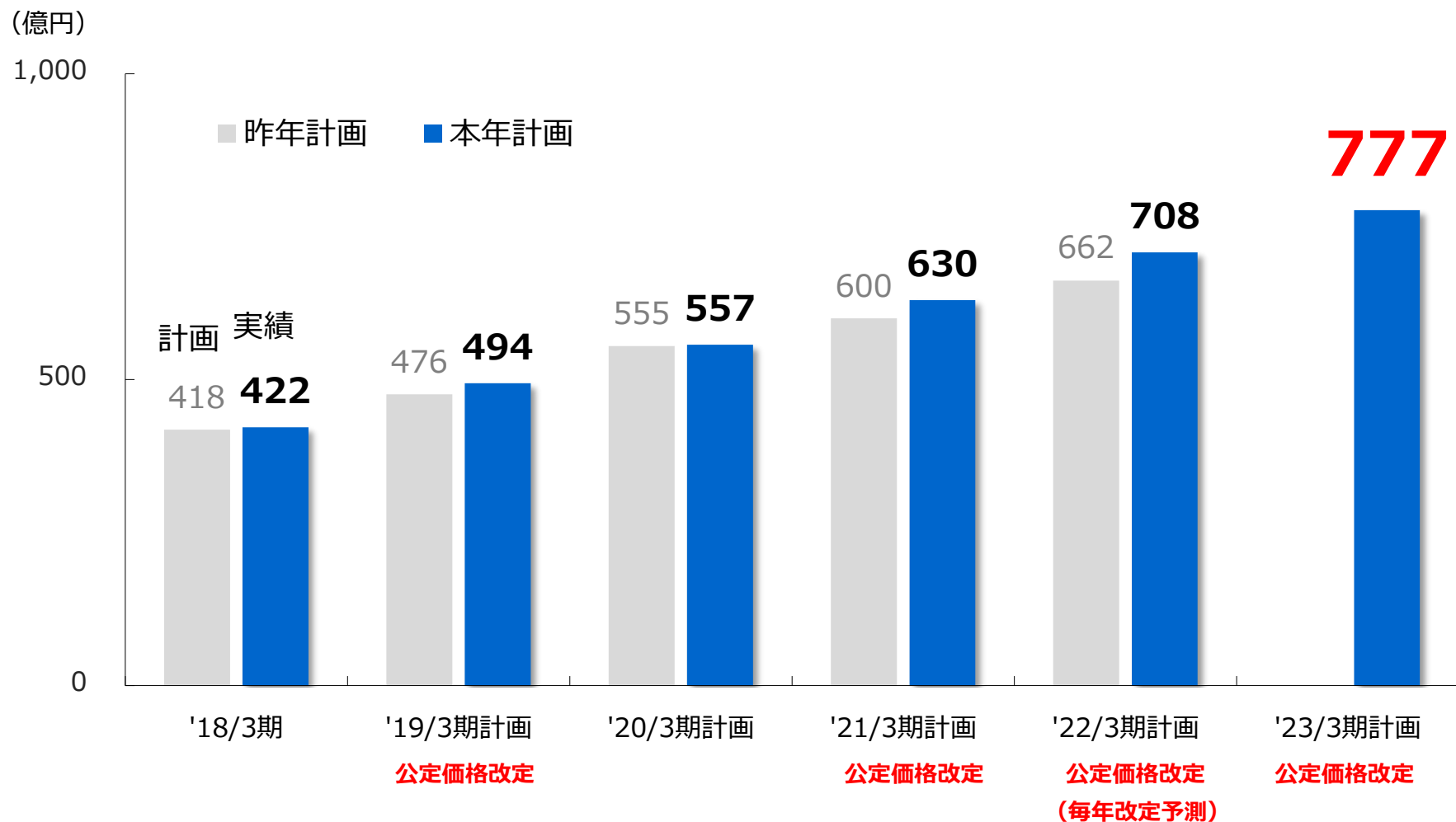
連結売上高

777億円

営業利益率

25%

中期経営計画 業績目標



※計画値には上市時期が特定されていない商品/製品は含まない

事業分野別 中期見通し・課題

リズムデバイス

- ・不整脈事業の基盤
- ・市場は成熟、事業規模を維持

EP/アブレーション

- ・症例増加、オンリーワン商品の成長
- ・治療商品導入により成長は加速

外科関連

- ・大動脈治療での存在感高める
- ・自社製品の海外展開図る

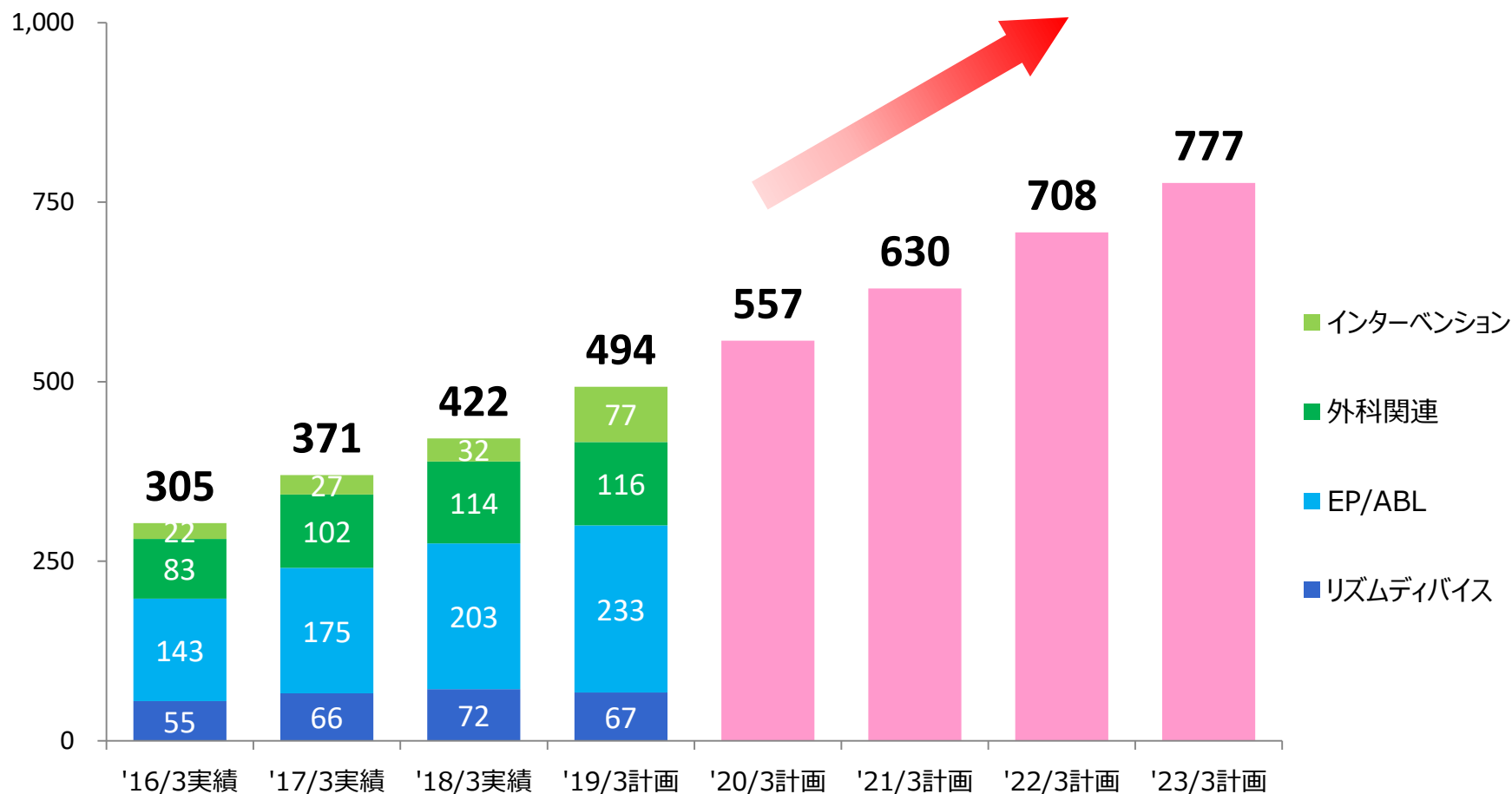
インターベンション

- ・大型新商品導入、シェア獲得目指す
- ・自社製品による新領域への挑戦

中期経営計画 売上高推移

EP/ABLを中心として高い水準の成長を見込む

(億円)



リズムデバイス 中期見通し・課題

- ① 遠隔モニタリング装置の早期供給確保
- ② 3TのMRI撮像が可能なペースメーカーの導入を急ぐ
- ③ 新商品導入による頻脈治療商品のシェア拡大

リズムデバイス 新商品

CRT-Dの新商品を導入

- 「PLATINIUM SonR」
- 心房リード先端の加速度センサーにより、最適な心臓再同期療法が可能
- 5月に薬事承認取得済み 7月発売予定



左 : 「PLATINIUM SonR CRT-D」
(プラティニウム・ソナー CRT-D)

右 : 「SonR Tipリード」

心臓ペースメーカーのMRI 3T対応

- 3テスラでのMRI検査が可能となる
- 本年下期に既存品「KORA250」から対応
- 後継モデル「ENO」を当期末に上市予定

頻脈治療商品のMRI対応

- '20/3期以降となる見通し

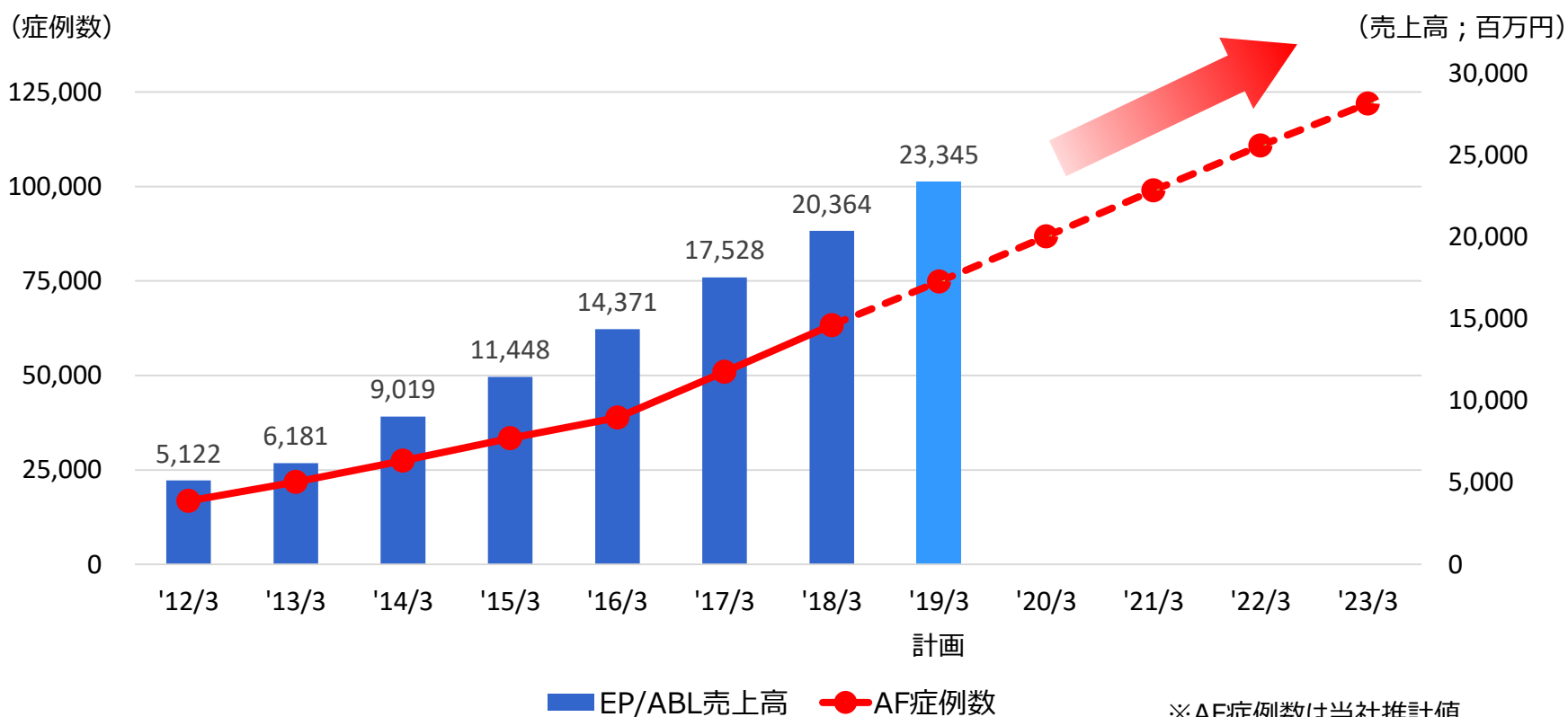
EP/ABL 中期見通し・課題

- ① AF*のアブレーション症例数は
引き続き二桁を超える増加を見込む
- ② 症例数増加を背景にオンリーワン商品がさらに伸長
- ③ 内視鏡・レーザーアブレーションシステム導入により
治療分野を強化
- ④ 既存自社製品の改良・拡販

*AF: Atrial Fibrillation（心房細動）

EP/ABL AFアブレーションの症例数予測

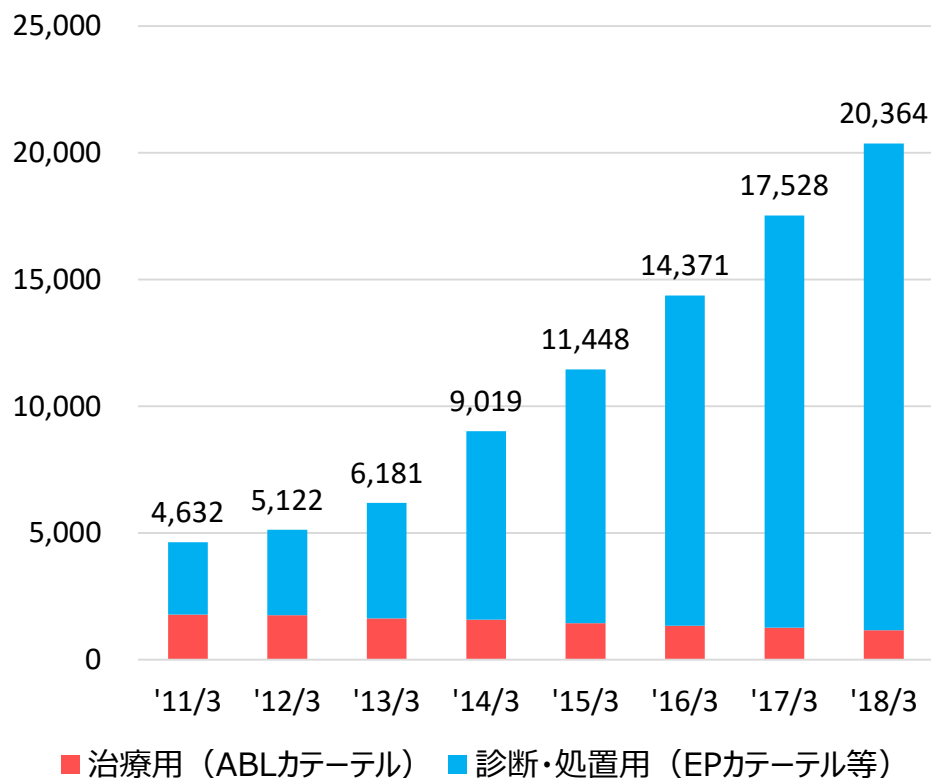
- ・ AF症例数は'23/3期には12万例を超えると予想
- ・ EP/ABLの売上高は、AF症例数と高い相関
- ・ オンリーワン商品を中心に堅調な推移を見込む



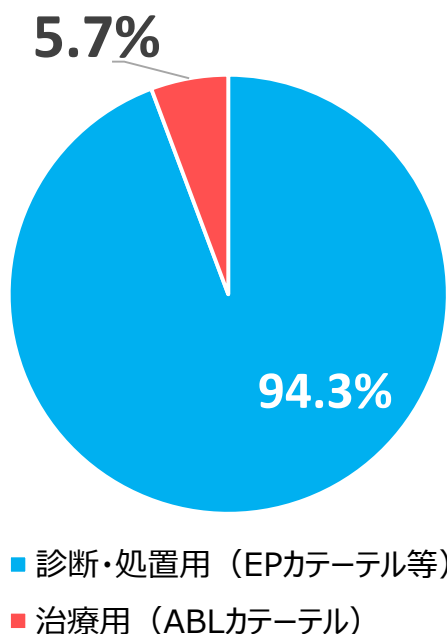
EP/ABL 売上構成（用途別）

- ・ EP/ABL全体に占める治療用商品は5.7%に留まる（'18/3実績）
- ・ HeartLight導入により、治療領域の成長を図る

（百万円）



'18/3 EP/ABL売上構成

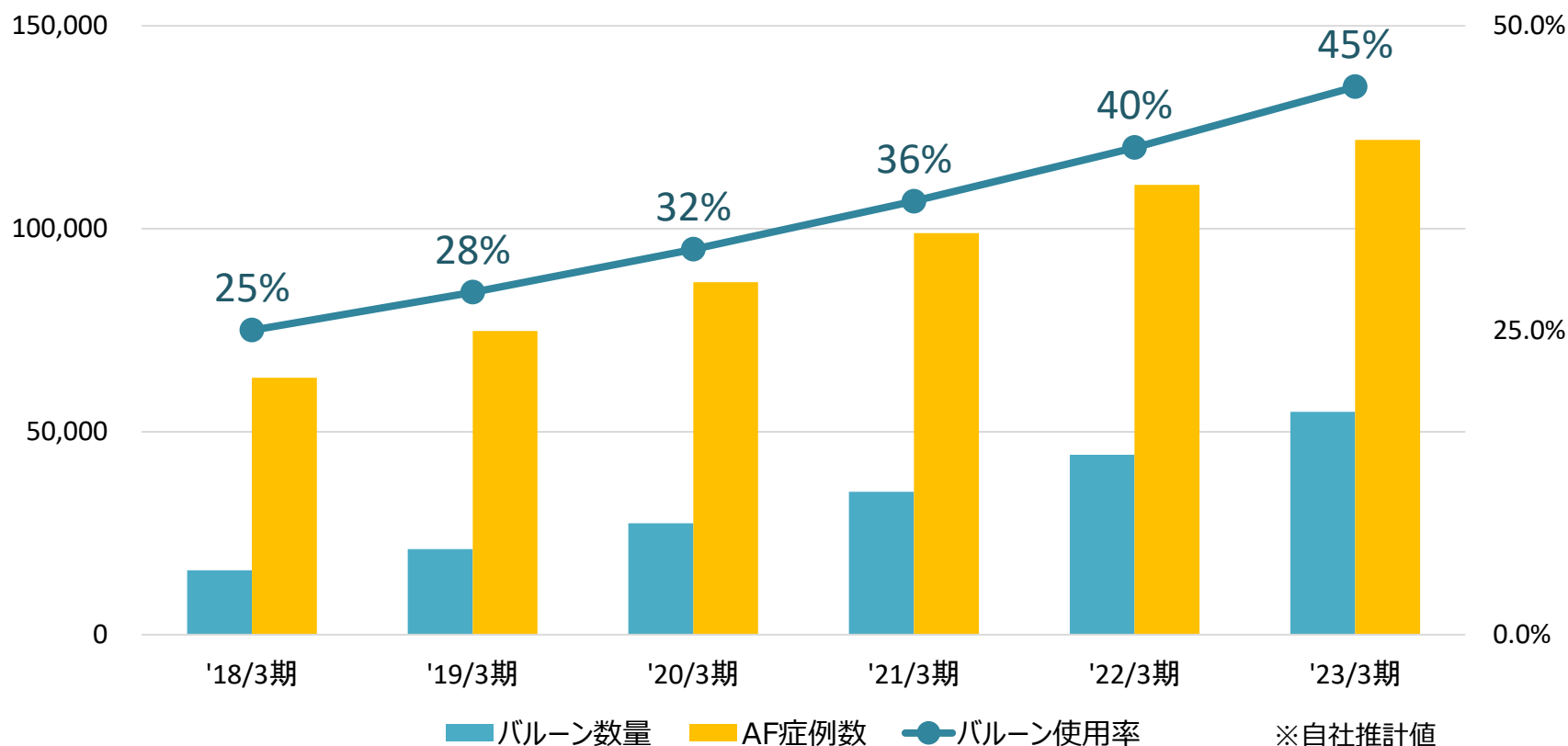


※診断・処置用には心腔内除細動カテーテル、食道温モニタリングカテーテル、高周波心房中隔穿刺針等を含む

EP/ABL バルーンアブレーション市場予測

- ・ 従来の高周波ABLカテーテルに比べ効率性が高く普及を見込む
- ・ '23/3期にはAF症例の45%がバルーンアブレーションと予想

(症例数/本数)



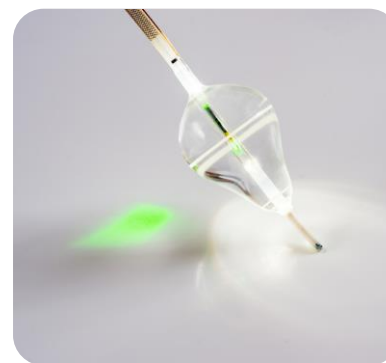
EP/ABL 新商品 HeartLight

当期2Qの販売開始を予定

- 「HeartLight」
- Cardiofocus社製
- 内視鏡で肺静脈を直視可能
- 焼灼レーザーの出力調整が可能

HeartLight後継品も導入を計画

- バルーン改良品「EXCALIBUR」
- 手技時間を短縮「X3」



内視鏡アブレーションシステム
「HeartLight（ハートライト）」
上：カテーテル
右：コンソール



5年後バルーンアブレーション市場でシェア40%目指す

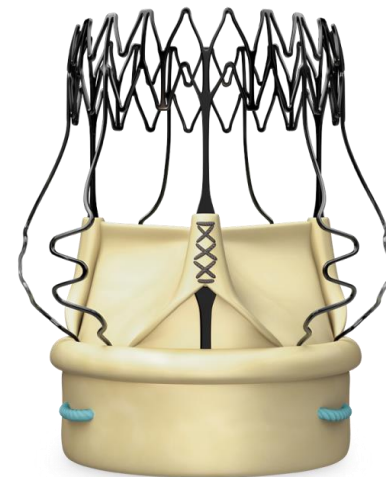
外科関連 中期見通し・課題

- ① スーチャレス生体弁市場の確立
- ② 次世代腹部用ステントグラフトの早期導入
- ③ 自社製品オープンステントグラフトの海外展開
- ④ 胸部用ステントグラフトの早期導入

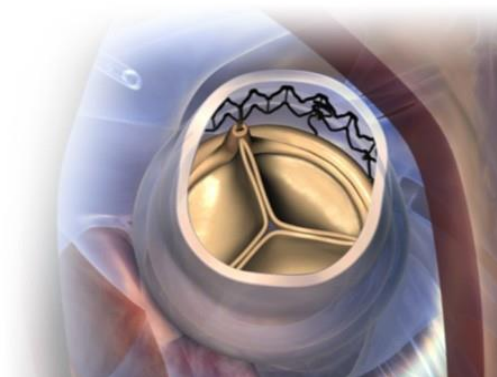
外科関連 新商品 PERCEVAL

スーチャレス生体弁

- 「PERCEVAL」
- 一切の縫合が不要な新しいタイプの生体弁
- 手技時間の短縮により、低侵襲治療が可能
- 当期下期の導入を目指す

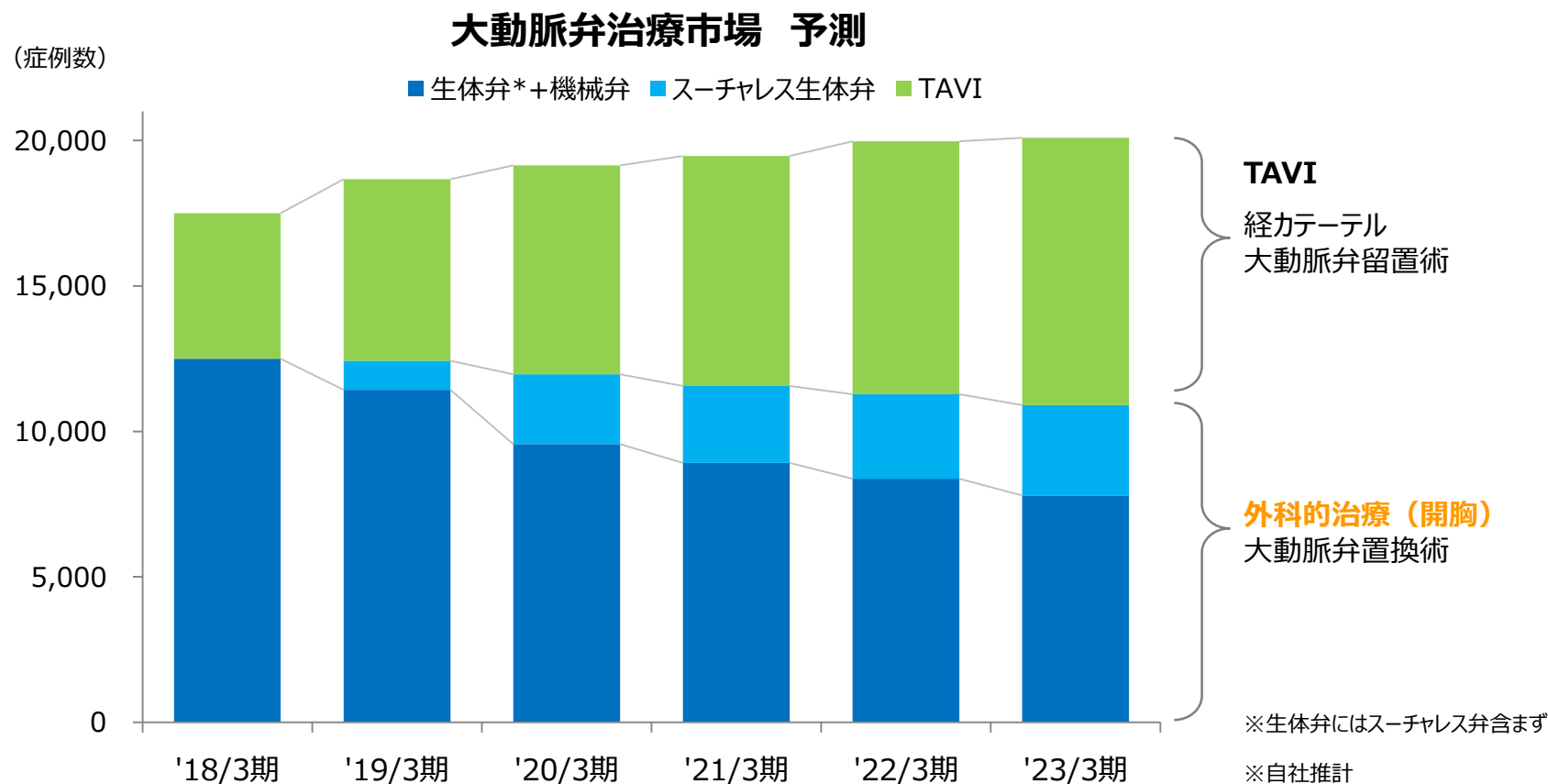


スーチャレス生体弁
「PERCEVAL（パーシバル）」



外科関連 新商品 PERCEVAL (市場予測)

外科的治療において新たな市場創出を目指す



外科的治療において5年後シェア25%超を目指す

外科関連 腹部用ステントグラフト導入計画

2017/2上市

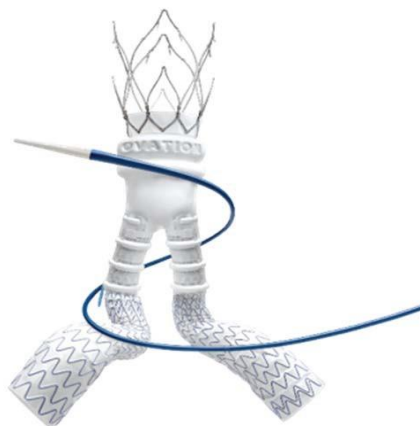
AFX2



操作性の改善により
さらなるシェア拡大

'20/3期上期上市予定

Ovation



市場で最も細いデリバリーシステムが
多様な症例に対応

'22/3期下期上市予定

Nellix



新しいコンセプトの
次世代ステントグラフト

腹部領域において他社にない多様なラインナップ

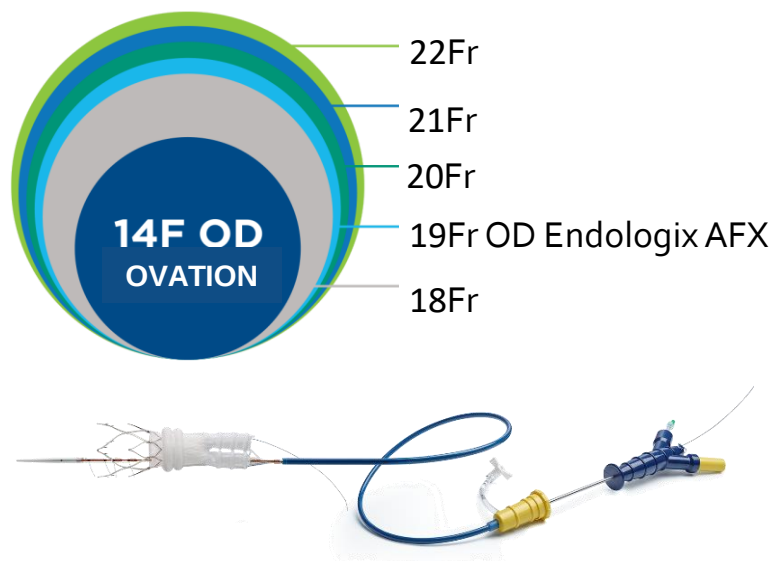
外科関連 新商品 Ovation

最も細いデリバリーシステムにより低侵襲治療が可能

- 既存品で困難だった細く蛇行した血管にも対応が可能

グラフト周囲の円盤状のバッグにポリマーを充填し固定

- 多様な動脈形態へ適合し、タイプ I エンドリークを抑制



腹部用ステントグラフト
「Ovation（オベーション）」



ポリマー充填部

外科関連 新商品 Nellix

瘤内部にポリマーを充填する次世代品

- スtentグラフトの周囲にあるエンドバッグにポリマーを注入

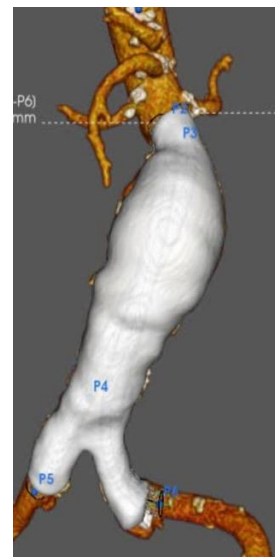
留置後の追加治療を根絶する唯一のデバイス

- 瘤内部に充填されたポリマーがエンドリークを防ぐ



Nellixカテーテル + エンドバッグ

腹部用stentグラフト
「Nellix（ネリックス）」



外科関連 オープンステントグラフトの取組み

オンリーワン自社製品

- － 低侵襲治療方法としての確立・普及
- － 臨床研究を実施し、さらに評価を高める

海外販売に向け準備を進める

- － 台湾
4月に国立台湾大学病院にて初症例を実施済
- － 欧州
7月CEマーク取得を目指す
CE取得後イタリア、ドイツでの上市を計画



オープンステントグラフト
「J-Graft FROZENIX（ジェイ・グラフト
フローズニクス）」

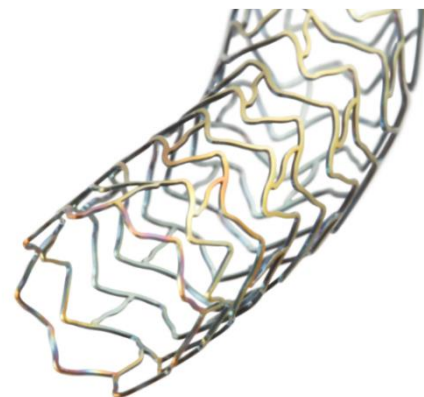
インターベンション 中期見通し・課題

- ① 薬剤溶出型冠動脈ステントの販売を開始
- ② 下肢用DCB 早期の治験終了・導入を目指す
- ③ 消化器領域の新規開拓

インターベンション 新商品 Orsiro

薬剤溶出型冠動脈ステント上市

- 「Orsiro」を本年3月より発売
- 生体吸収性ポリマーの第3世代DES
- 最薄ストラットの製品で市場シェア15%を目指す



薬剤溶出型冠動脈ステント
「Orsiro（オシロ）」

施設への在庫預託を進める

- 対象施設約1,200のうち約700施設での預託が完了

臨床試験を実施し、国内でも性能の実証を目指す

- CASTLE Study*
- 留置後12ヶ月における標的病変不全発生率を競合製品と比較

*Randomized Comparison “All-Comers” Study of Ultra Thin-Strut and Thin Strut Drug-ELuting Stents

インターベンション 新商品 末梢用DCB

末梢用DCB*の導入準備を進める

- 下肢用（BTK*）薬剤溶出バルーンカテーテル
- CARDIONOVUM社製「LEGFLOW」
- 薬剤パクリタキセルが再狭窄を抑制
- 当期中の治験終了を目指し、'21/3期上期導入目指す



下肢用DCB
「LEGFLOW（レッグフロー）」

*Drug Coating Balloon

*Below the Knee

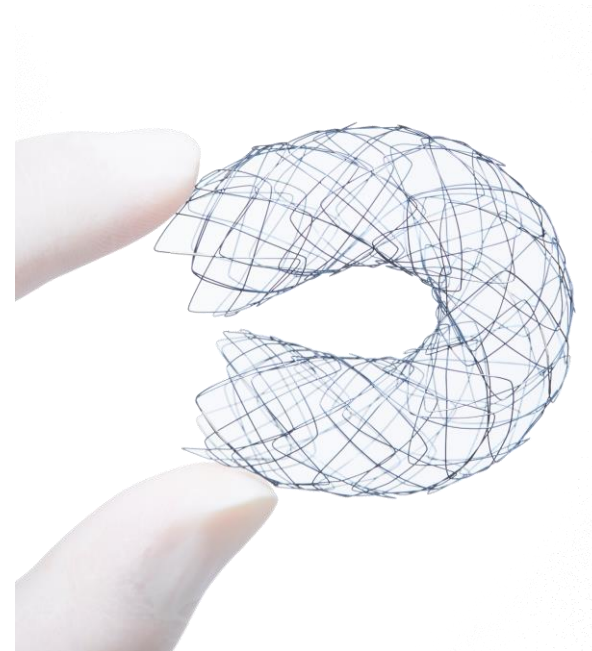
インターベンション 消化器領域への新規参入

大腸ステント導入により新領域への参入果たす

- 大腸ステント「JENTLLY」
- 昨年6月発売、本年1月フルリリース
- 自社製品であり、唯一の国産製品
- オープンステントの技術を応用

さらに製品ラインナップを強化

- 胃・十二指腸ステントの開発
- ラジオ波腫瘍焼灼システムの開発



大腸ステント
「JENTLLY（ジェントリー）」

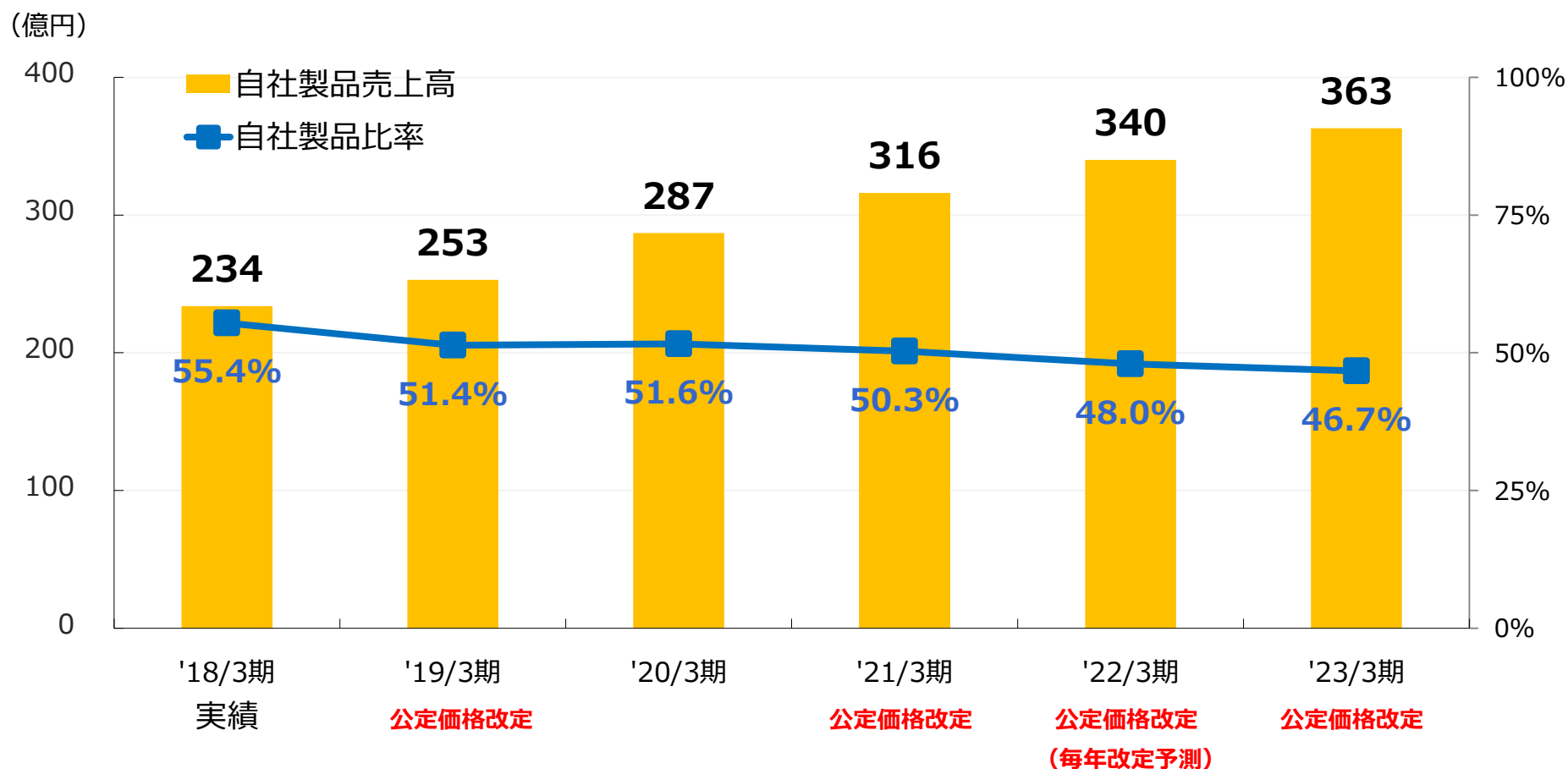
自社製品 中期見通し・課題

- ① EP関連を中心に堅調な推移を見込む
- ② 本計画での海外売上高は全売上高の3%弱*に留まる
早期の本格展開に向け取り組む
- ③ 自社製品技術の応用による他領域への進出にも注力

*'23/3期時点

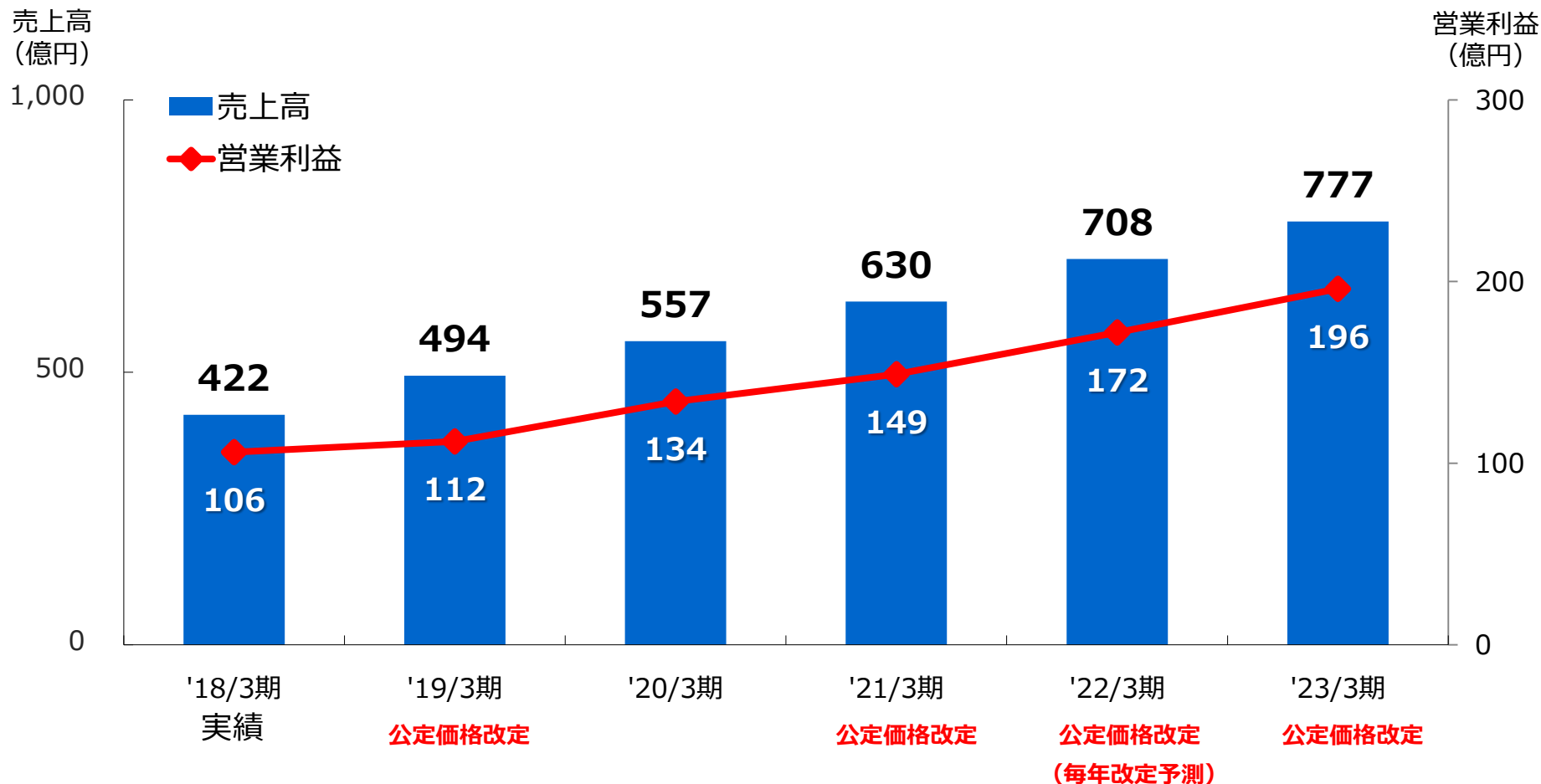
自社製品 売上高推移

売上高は順調に増加、構成比は仕入品増により低下



中期経営計画 営業利益推移

自社製品比率は低下するものの、
営業利益は24～25%前後の高水準を維持



中期経営計画 開発生産体制

中長期を見据え、開発・生産投資を行う

研究開発

リサーチセンター（戸田市）



本年4月新棟が稼働

中核工場

戸田ファクトリー（戸田市）



海外工場①

シンセン工場（中国シンセン市）

子会社
SYNEXMED社

血管・OSG生産

市原ファクトリー（市原市）



量産対応

小山ファクトリー（小山市）



2期棟'20/3期末稼働予定

海外工場②

マレーシア工場 （マレーシアペナン州）

子会社
JLL Malaysia社

'20月1月 稼働予定

中期経営計画 設備投資

マレーシア工場の建設

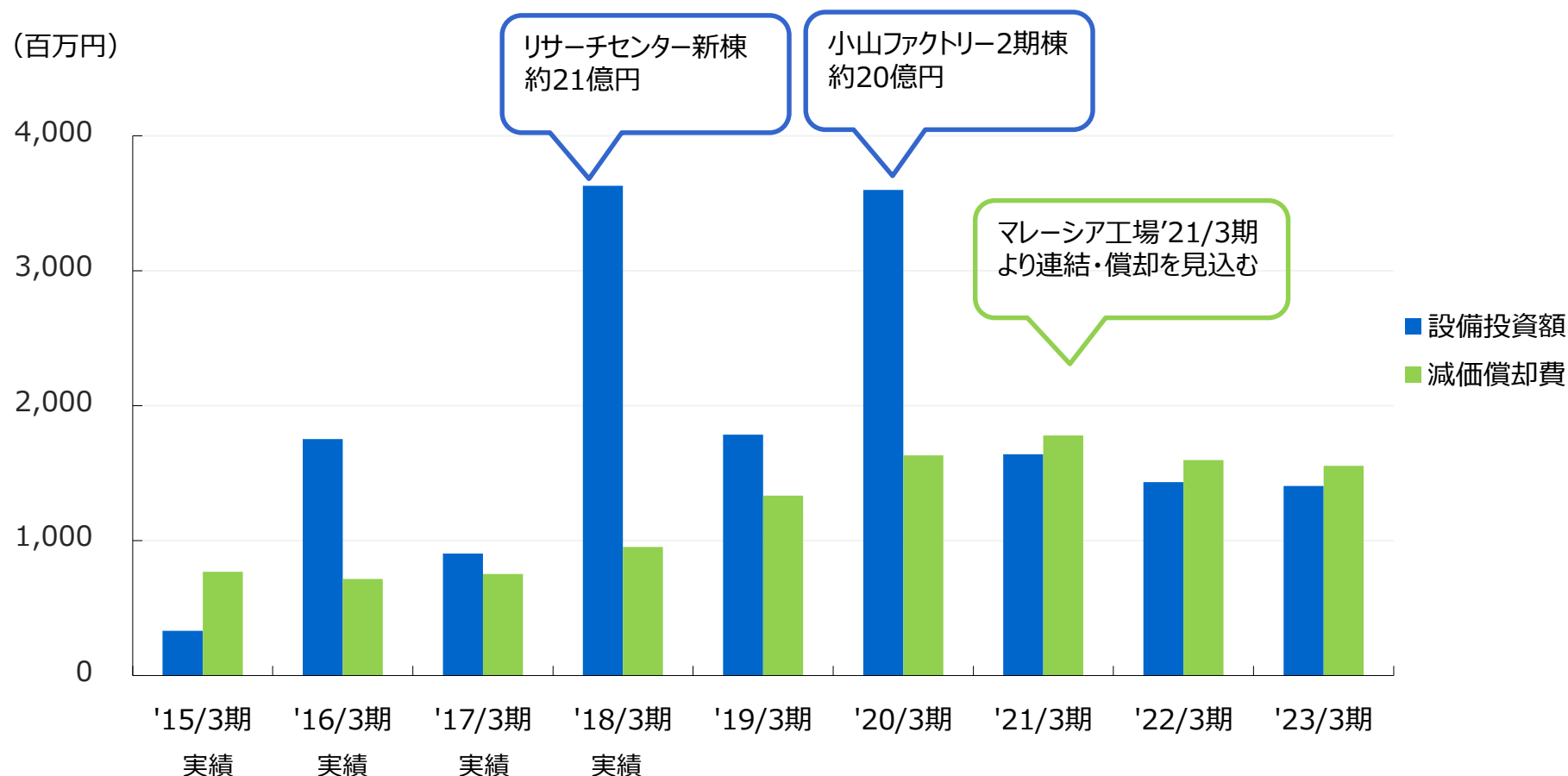
- 生産面での海外展開、将来的には輸出の中核工場へ
- 増産分の内製化、生産の複線化
- '20年1月の稼働を目指す
- 投資額は約20億円（うち土地約2億円）を想定
- '21/3期から連結見通し

小山工場の2期棟の建設

- コア技術の海外流出を回避し、増産に対応
- 取得済み工場用地を活用
- '20/3期末の稼働を目指す
- 投資額は約20億円を想定

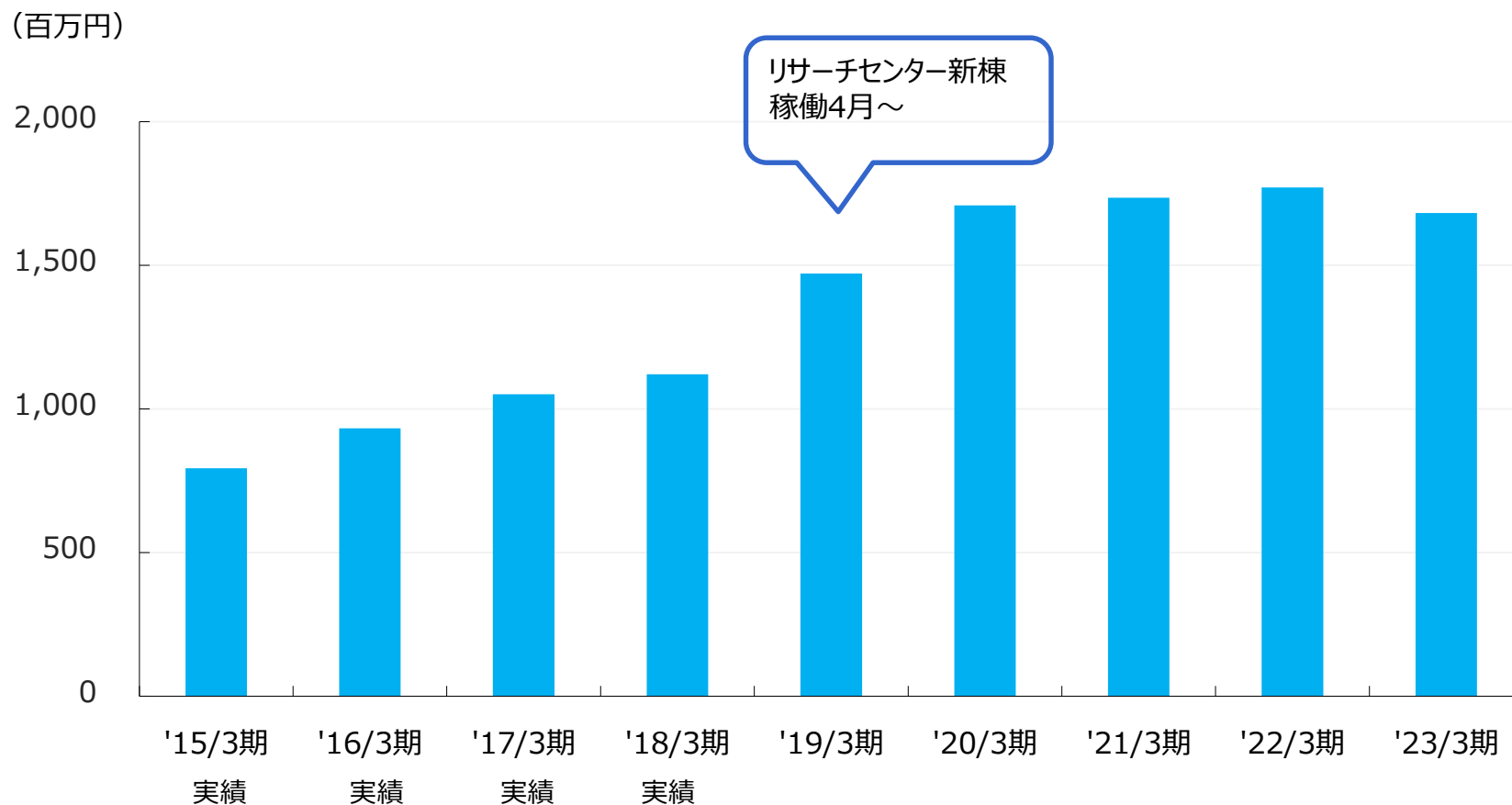
中期経営計画 設備投資・減価償却費の推移

開発・生産体制の充実が進む



中期経営計画 研究開発費の推移

リサーチセンター新棟4月稼働開始、研究開発に注力



**仕入商品の開拓、
自社製品の開発に努め**

'23/3期

売上高777億円 営業利益率25%

を目指す



for Patient comfort...

JL Japan Lifeline

ご注意事項

本資料の記載内容のうち、歴史的事実でない事項は、当社の将来に関する見通し及び計画に基づいた将来予測です。特に、商品や製品の導入に係る、治験および薬事承認に係る事項、また発売時期につきましては、過去の経験や入手可能な情報から得られた当社の予測であります。実際の業績は、さまざまなリスクや不確実な要因の影響により、本資料記載の見通しと異なる可能性がありますので、これらの見通しに過度に依存されないようお願いいたします。

本資料に関するお問い合わせ先

日本ライフライン株式会社
経営戦略部

TEL:03-6711-5214

E-Mail:ir@jll.co.jp

URL:<http://www.jll.co.jp>